

3. 景気と経済データ

マクロ経済学で習うこと

中心はGDP

(支出の内訳)

$GDP = 消費 + 住宅投資 + 設備投資 + 在庫投資 + 公共投資 + 政府支出 + 輸出 - 輸入$

(時系列)

$GDP = 経済成長 + 景気循環$

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	企業	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

景気の波

コンドラチェフの波		約 50 年
クズネッツの波		15-25 年
ジュグラの波		8-12 年
チキンの波		2-4 年

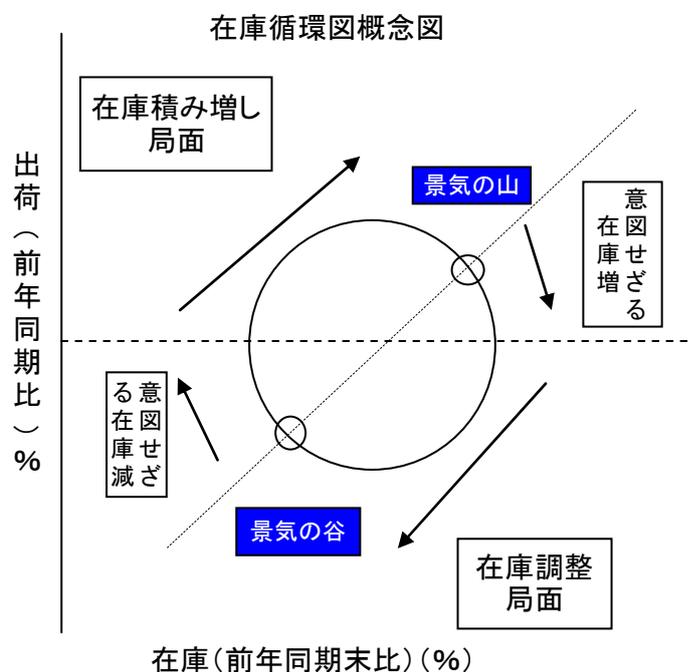
技術革新

1900 年代初め ()

1940 年代終わり ()

1990 年代終わり ()

在庫循環図



景気循環の理論

「加速度原理」→大規模な設備投資、石油ショックなど
 一度設備投資が増えると、さらに増えていって景気変動が大きくなる

リアル・ビジネスサイクル（実物的景気変動）

景気変動は、ある均衡状態からの乖離と考えられていたが、リアル・ビジネスサイクルでは、均衡状態を維持しつつ、景気変動が起こるとする。

供給側のショック（原油価格や生産性）が重要だと考える。

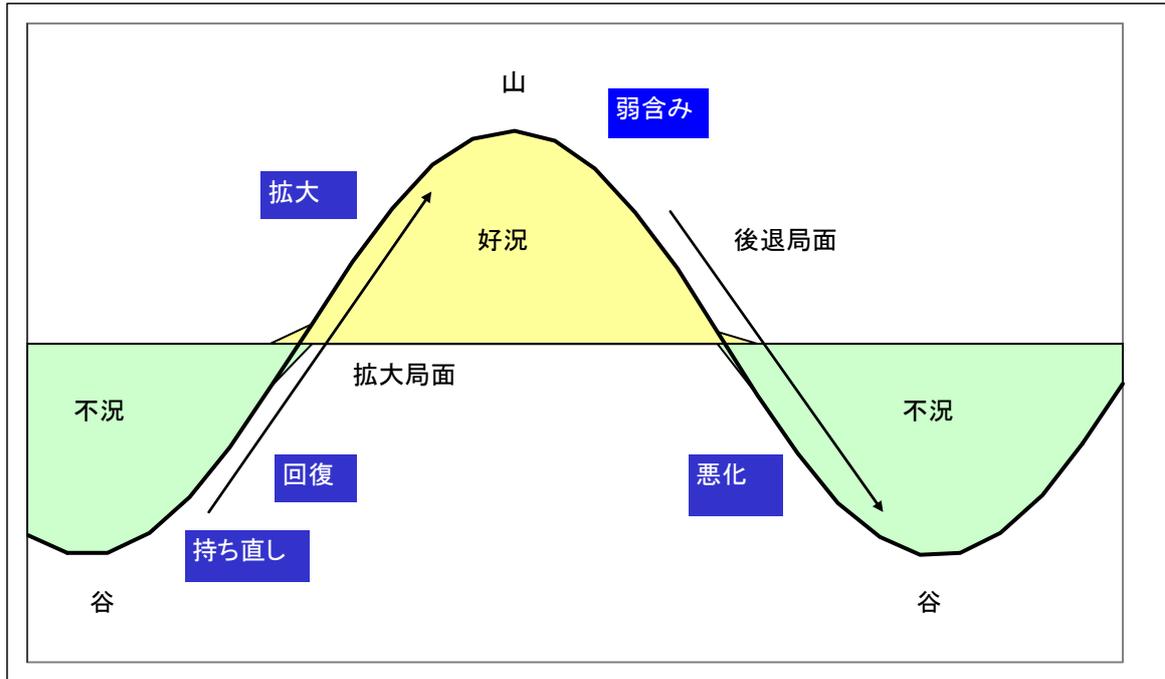
景気の見方

○ 景気循環の局面の見方① 方向で見る

() ()

○ 景気循環の局面の見方② 水準で見る

() ()



戦後日本の景気

○朝鮮特需景気 1951年～

○神武景気 1954年～ ○岩戸景気 1958年～

・三種の神器 () () ()

オリンピック景気 1962年～

・建設需要による

○ () 景気 1965年～

・3C () () ()

石油ショック

・原油価格の値上がりで、省エネ化が進む。

安定成長期 1974年～

○ () 景気 1987年～

・株や土地の大幅な値上がり

バブル崩壊不況 1993年～

経済データ

《所得関連指標》

家計調査、企業の経常利益、国民所得

《生産関連指標》

GDP、鉱工業指数、第3次産業活動指数、電力指数など

《消費関連指標》

家計調査、百貨店売上高、大型小売店、販売統計

《投資関連指標》

機械受注統計、建設工事受注、住宅投資

《物価関連指標》 消費者物価指数、企業物価指数

《雇用関連指標》 失業率 有効求人倍率

《金融関連の指標》 金利、マネーサプライ（マネーストック）、株価、為替レート

《貿易・国際収支関連の指標》 通関統計、国際収支表

《月例経済報告》

《日銀短観》

《景気動向指数》

- ・月例経済報告
- ・景気ウォッチャー調査
- ・景気動向指数について
- ・計量モデル予測について

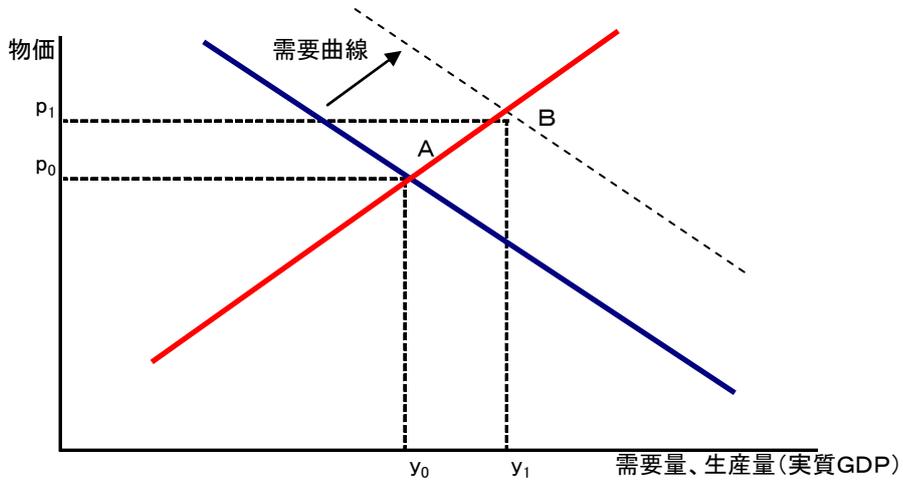
インフレ 物価の継続的な上昇

デフレ 物価の継続的な下落

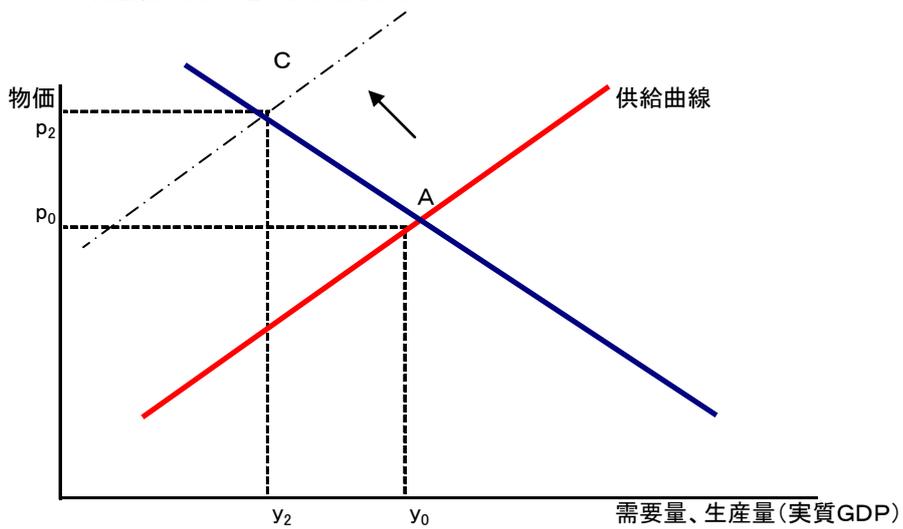
↓

消費・景気に影響

需要曲線が動くことによる物価上昇



供給曲線が動くことによる物価上昇



景気に与える金利の影響

<企業>

高金利 → 利益源 → 投資意欲減退

<家計>

高金利 → ローン控える → 消費減退

日銀の役割 ①通貨の安定 ②経済の安定的な拡大



金融政策

経済データ

GDP (国内総生産)

日本で生産された量全体を把握。戦後からほぼ一貫して増加している。

60年代から70年代前半→ ()

74年→ ()

80年→ ()

90年→ ()

失業率 (働きたい人のうち、失業している割合)

失業率 = () / ()

自然失業率 経済の好況不況にかかわらず生じる失業率

消費者物価指数 (消費者が買うさまざまな商品の平均的な価格)

基準年を2005年にした数字にしている。物価が継続的に上がることをインフレーション、下がることをデフレーション (デフレ) という。

株価 (日経平均) (225社の株価を平均したもの)

株価は、ある企業の会社の価値を示す。代表的な会社225社の株価について平均したもの。
なぜ225社か？

金利

- ・金利は、お金を借りると払い、お金を預けるともらえる。
- ・短期は1年未満、長期とは1年以上のこと。グラフは、コールレートと公社債インデックス (国債、地方債、社債などを買った時の平均的な金利) を表す。
- ・コールレートは翌日物が中心。銀行間でやりとりする (インターバンク市場)。
- ・金利は、景気が良いと高くなり、悪いと低くなる。

また、金利を上げることで、景気の過熱を防いだり、下げることで景気を良くしようとする。
(金融政策)

マネーサプライ (マネーストック)

日本に出回っている現金と預金の量。マネタリストが重視。
現金通貨、預金通貨から構成される。

為替レート

通貨を交換する時の比率。

1ドル100円→200円は円高?円安?

ストックとフロー

経済データは、ストックのデータとフローのデータに分類される。

フロー → 一定期間内の量

ストック → ある時点で存在する量（使ってなくなるものはストックにならない）

フロー	ストック
1年間の預金量	貯金の総額
GDP（ある期間生産量）	国富（生産したものの合計）
通貨発行量	マネーサプライ（お金の存在量）
所得	資産
消費（ある期間に使った量）	
投資（ I ）	資本ストック（これまでの投資を合計）

実質と名目の違い

名目は「外見」、実質は「中身」を表す。

名目GDP = 生産量 × 価格

実質GDP = 名目GDP / GDPデフレーター × 100

(実質GDP成長率 = 名目GDP成長率 - GDPデフレーター上昇率)

GDPデフレーターは、物価指数の一種で、基準年を100として表す。

価格が200から300(1.5倍)に増える場合、GDPデフレーターは100から150(1.5倍)に増える。

ある国ではリンゴしか生産していなかったとする。その生産量、価格は表の右側に記されている。このとき、名目GDP、実質GDPはいくらになるか？

生産量は変わらず、価格だけ上がった場合

	名目GDP	実質GDP	GDPデフレーター	リンゴの生産量(個)	価格(円)
2000			100	10	200
2001				10	300

生産量が増えて、価格が変わらない場合

	名目GDP	実質GDP	GDPデフレーター	リンゴの生産量(個)	価格(円)
2000			100	10	200
2001				15	300

生産量が増えて、価格も上がった場合

	名目GDP	実質GDP	GDPデフレーター	リンゴの生産量(個)	価格(円)
2000			100	10	200
2001				15	300